



# 民藝SHOCK!!

## 没後60年 静嘉堂の河井寛次郎



Ceramicist Kawai Kanjirō:  
The Sources of His Creativity in Traditional Ceramics

大正・昭和期を代表する陶芸家・河井寛次郎<sup>かわい かんじろう</sup>(1890～1966)。今からおよそ100年前の大正14年(1925)に、柳宗悦<sup>やなぎむねよし</sup>や濱田庄司<sup>はまた しょうじ</sup>とともに「民藝」(=民衆の工藝)の語を生み出し、「用の美」を意識したやきものを創作しました。静嘉堂は昭和初期を中心とする51件の寛次郎作品を所蔵しています。本展では、この全貌を初めて公開するとともに、寛次郎にインスピレーションを与えたと考えられる日本・中国・朝鮮などの古陶磁を展示し、その創作の源泉をさぐっていきます。

### 【開催概要】

展覧会名 : 民藝SHOCK!!—没後60年 静嘉堂の河井寛次郎

会 期 : 2026年9月5日(土)～11月8日(日) ※会期中、一部作品の 展示替えがあります

会 場 : 静嘉堂@丸の内(明治生命館1階)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館1階

休 館 日 : 毎週月曜日(ただし 9月21日(月・祝)、10月12日(月・祝)は開館)、9月24日(木)、10月13日(火)

トークフリーデー : 毎週木曜日

開館時間 : 午前10時～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで

※毎月第4水曜日の9月23日(水・祝)、

10月28日(水)は午後8時まで、

11月6日(金)、11月7日(土)は

午後7時まで開館

入 館 料 : 一般 1,500円 大高生 1,000円 中学生以下無料

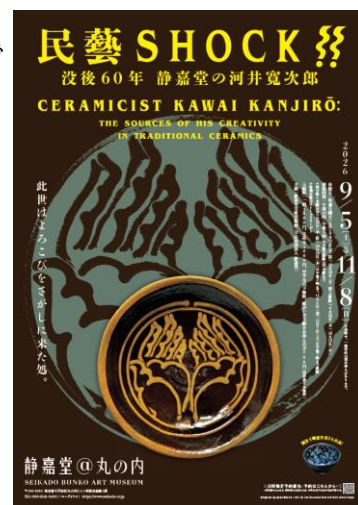
主 催 : 静嘉堂文庫美術館(公益財団法人 静嘉堂)

ホームページ : <https://www.seikado.or.jp>

X : @seikadomuseum /

Instagram: @seikado\_bunko\_artmuseum

お問い合わせ : TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)



### 本展3つのみどころ

- ① 初めての館蔵寛次郎作品全件公開！(初公開の2件+25年ぶりの49件)
- ② 静嘉堂にも民藝が!! 李朝、丹波焼、瀬戸の石皿etc.
- ③ 曜変、砧青磁、官窯…寛次郎も知っていた?!東洋陶磁の名品も!!!

## みどころ①

# 初めての館蔵寛次郎作品全件公開！ (初公開の2件+25年ぶりの49件)

館蔵の河井寛次郎作品をまとめて展示するのは、平成13年(2001)以来、25年ぶりとなり、館蔵51点を一挙にご覧いただく初の機会となります。館蔵品の制作年代は大正13年(1924)から昭和12年(1937)頃にいたり、その大部分が寛次郎が民藝運動の中心メンバーとして活躍しはじめた昭和初期の作品です。大正末期から昭和20年頃までのこの時期は、およそ3期に区分される寛次郎の作陶の中期にあたり、「用の美」を意識した暮らしの中にとけこむ作品を制作しました。寛次郎の盟友・濱田庄司が英国からもたらしたスリップウェアに衝撃を受けて、寛次郎が夢中で制作に挑んだ「流し薬」「流し描」をはじめ、海鼠釉、辰砂、染付、青瓷(青磁)、鉄薬など、中期を代表するさまざまな技法による作品を紹介いたします。



そう か ず じゅうぼ  
《草花図重筥》  
河井寛次郎  
昭和10年(1935)  
総高18.5cm



なが がき ぼち  
《流し描鉢》  
河井寛次郎  
昭和6年(1931)頃  
口径40.1cm

広報画像1



広報画像2

ねり あげ ぼち  
《練上鉢》  
河井寛次郎  
昭和10年(1935)  
口径21.9cm



そう か ず づぼ  
《草花図壺》  
河井寛次郎  
昭和6年(1931)頃  
高19.1cm



し ころ うり づぼ  
《紫紅瓜壺》  
河井寛次郎  
昭和3~4年(1928~29)頃  
高25.7cm

広報画像3



さん さい やくし ぞう  
《三彩薬師像》  
河井寛次郎  
大正13年(1924)  
高40.4cm

## みどころ②

# 静嘉堂にも民藝が!! 李朝、丹波焼、瀬戸の石皿etc.

日本伝世の茶道具や唐三彩、宋磁や清朝官窯などの中国陶磁コレクションが注目されることの多い静嘉堂ですが、「李朝」の名で親しまれる朝鮮王朝時代の陶磁器をはじめ、日本の丹波焼や瀬戸焼、九州各地の民窯など、柳宗悦たちが提唱した「民藝」の範疇にあるやきものも比較的多く所蔵されています。これまで公開の機会の少なかった作品や未公開の作品を含め、日本各地の民窯や朝鮮時代のやきもの、中国の磁州窯陶器や呉州赤絵なども御覧いただきます。

寛次郎作品と比較することで、寛次郎が自作に表現した古陶磁の美や面白さを見つけてください。

### 朝鮮陶磁の器形が…

《鉄砂草文扁壺》(左)  
朝鮮時代(17世紀)  
高21.2cm



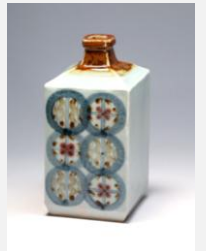
広報画像4



《青花草花文字文角瓶》(右)  
朝鮮時代(19世紀)  
高13.8cm



広報画像5



《呉洲扁壺》  
河井寛次郎  
昭和9年(1934)頃  
高25.3cm

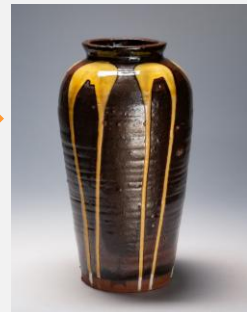
《草絵丸紋壺》  
河井寛次郎  
昭和7年(1932)頃  
高22.4cm  
9/5→10/12展示

### 丹波焼の釉掛けの技が…

《赤土部灰釉徳利》  
丹波  
江戸時代(17~18世紀)  
高24.2cm



広報画像6



広報画像7

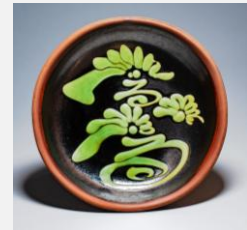
《流し薬壺》  
河井寛次郎  
昭和5~6年  
(1930~31)頃  
高30.2cm  
9/5→10/12展示

《灰釉錆絵染付柳文石皿》  
瀬戸  
江戸時代(19世紀)  
口径35.1cm



広報画像8

### 瀬戸の石皿の文様が…



広報画像9

《松の図鉢》  
河井寛次郎  
昭和5年(1930)頃  
口径29.8cm

《灰釉錆絵染付松文石皿》  
瀬戸  
江戸時代(19世紀)  
口径38.0cm



広報画像10



広報画像11

《草絵食籠》  
河井寛次郎  
昭和9年(1934)頃  
総高16.0cm

### みどころ③

ようへん きぬたせいじ かんよう

## 曜変、砧青磁、官窯…寛次郎も知っていた?!東洋陶磁の名品も!!!

寛次郎が活躍をはじめた大正末期は、中国大陸に欧米列強が進出し、インフラ整備の開発等によって古代以来地中に眠っていた文物がよみがえり、また清朝の宮廷や貴族たちに秘蔵されていた宝物が流出し、中国の美術品が世界の人々の目に触れるようになっていった時期と符合します。静嘉堂創設者の一人である岩崎小彌太(1879~1945)もそうした時期に唐三彩や宋~元代のやきものの優品(いわゆる「宋磁」)、官窯製品を中心とする清朝陶磁などの蒐集を開始し、中国陶磁コレクションを完成させました。

寛次郎は京都市陶磁器試験場時代(1914~17)に、海外から輸入された高価な専門書や図録から、欧米の一流コレクターが所蔵するさまざまな中国陶磁を学んでいたと考えられています。支援者の山岡千太郎から贈られた欧米の専門書を親友・濱田庄司と共に読み、研究したといひます。また中国の古文献や、当時刊行されていた中国の骨董関連の書籍にも目を配っていたことが本展に関わる調査により分かりました。

本展では唐三彩や宋磁の影響の見られる寛次郎作品と館蔵の唐三彩、宋磁の名品を合わせて展示します。



広報画像12

#### 《青磁鼎形香炉》

南宋官窯 南宋時代(12~13世紀)

高13.5cm

9/5→10/12展示



広報画像14

#### 《澱青釉紫紅斑双耳香炉》

鈞窯 元時代(13~14世紀)

高26.8cm



広報画像13

#### 重要文化財

#### 《青磁貼花牡丹唐草文深鉢》

龍泉窯 南宋~元時代(13~14世紀)

総高19.5cm 10/14→11/8展示



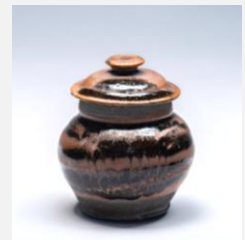
広報画像15

#### 国宝 《曜変天目(稻葉天目)》

建窯 南宋時代(12~13世紀)

口径12.2cm

#### 寛次郎の「曜変」も出品!



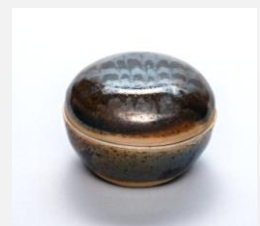
広報画像16

#### 《曜変壺》

河井寛次郎

昭和2年(1927)頃

総高9.9cm



#### 《曜変櫛目盒子》

河井寛次郎

昭和2年(1927)頃

総高4.8cm

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局(共同 PR 内 担当:三井)

※在宅勤務等ありますので、メールでいただくと助かります。

E-mail:[seikado-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:seikado-pr@kyodo-pr.co.jp) / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail:[press@seikado.or.jp](mailto:press@seikado.or.jp)(広報担当:大森・河本)

展覧会担当学芸員: 山田 正樹

E-mail: seikado-pr@kyodo-pr.co.jp  
静嘉堂文庫美術館 広報事務局行(共同PR内 担当:三井)

民藝SHOCK!!—没後60年 静嘉堂の河井寛次郎  
2026年9月5日(土)~11月8日(日)  
静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)  
【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申込みください(FAX:0120-653-545)

<画像使用全般に関する注意>

●展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、**指定表記、作家名、作品名、制作年、展示期間**を必ず掲載してください。**所蔵元(同一の場合)はまとめて1か所ご記載ください。**

●作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません(画像背景を削除するなど可能です)。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。

●概要など確認のため、グラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。

●掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	指定表記・作者名・作品名	制作年代	所蔵元
	1	《流し描鉢》河井寛次郎	昭和6年(1931)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	2	《練上鉢》河井寛次郎	昭和10年(1935)	静嘉堂文庫美術館蔵
	3	《紫紅瓜壺》河井寛次郎	昭和3~4年(1928~29)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	4	《鉄砂草文扁壺》	朝鮮時代(17世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	5	《呉洲扁壺》河井寛次郎	昭和9年(1934)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	6	《赤土部灰釉徳利》丹波	江戸時代(17~18世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	7	《流し葉壺》河井寛次郎	昭和5~6年(1930~31)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	8	《灰釉錆絵染付柳文石皿》瀬戸	江戸時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	9	《松の図鉢》河井寛次郎	昭和5年(1930)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	10	《灰釉錆絵染付松文石皿》瀬戸	江戸時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	11	《草絵食籠》河井寛次郎	昭和9年(1934)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
	12	《青磁鼎形香炉》南宋官窯	南宋時代(12~13世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	13	重要文化財《青磁貼花牡丹唐草文深鉢》龍泉窯	南宋~元時代(13~14世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	14	《澱青釉紫紅斑双耳香炉》鈞窯	元時代(13~14世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	15	国宝《曜変天目(稲葉天目)》建窯	南宋時代(12~13世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	16	《曜変壺》河井寛次郎	昭和2年(1927)頃	静嘉堂文庫美術館蔵
		ポスタービジュアル		

ご住所	〒		
社名/媒体名	社名	媒体名	
ご所属/ご担当者名	ご所属	ご担当者名	
TEL/FAX	TEL	FAX	
E-mail			
掲載号/	月号( 月 日号) / 月 日発売予定 (発行部数 部) <input type="checkbox"/> WEBへの転載あり		
チケットプレゼント	<input type="checkbox"/> 読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。 応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。		
チケット送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。		